● 診療科の特色

- 1. 上部消化器、下部消化器、胆膵内視鏡を中心に、消化器疾患全般を診療している。
- 2. 上下部内視鏡において、腫瘍の早期発見、範囲同定を拡大観察や特殊光を用いた狭帯光観察 (NBA)で行っている。
- 3. 内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を用いた、消化管の早期癌に対する内視鏡的治療に力を入れている。
- 4. ダブルバルーン小腸内視鏡、小腸カプセル内視鏡の両方を導入しており、多彩な小腸疾患にも対応可能である。
- 5. B 型肝炎・C 型肝炎治療、ラジオ焼灼治療、肝動脈塞栓術を用いた、肝疾患の治療も積極的に 行っている。
- 6. 各消化器癌に対する積極的な化学療法を入院および外来にて行っている。

● 入院診療実績

1. 主要入院患者数

年間入院患者数 1.006 人

	疾患	患者数
1	大腸ポリープ・直腸ポリープ・大腸腺腫・直腸腺腫	228
2	大腸癌·直腸癌	232
3	胃癌	133
4	胆石性胆管炎・胆石性胆のう炎・総胆管結石	111
5	食道癌	49
6	結腸憩室·憩室炎·憩室出血	52
7	膵癌	78
8	急性膵炎	29
9	胆管癌	42
10	イレウス・腸閉塞	52

2. その他

1) 特殊検査法

特殊検査法		症例数	合併症の有無	死亡退院数
1	上部消化管内視鏡検査	2779	なし	0
2	下部消化管内視鏡検査	1505	なし	0
3	胆膵内視鏡検査	273	なし	0
4	カプセル内視鏡(小腸・大腸)	26	なし	0
5	ダブルバルーン小腸内視鏡	25	なし	0

2) 特殊治療法

特殊治療法別	処置合併症とその内容	症例数
	食道 ESD	10
	胃 ESD	62
	大腸 ESD	38
	胃·十二指腸 EMR	10
内視鏡的	大腸 EMR	228
	EUS 専用	51
	FNA	27
	ERBD	25
	EST·砕石	19
	食道癌	32
	胃癌	50
	胃間葉系腫瘍	1
//a 224 / = 3+	小腸癌	0
化学療法	大腸癌	159
	肝細胞癌	13
	胆道癌	26
	膵癌	31
インターベンション	腹部血管造影 · 塞栓術	9

3) 研修、教育

	開催頻度	
消化器内視鏡カンファレンス	4 回/月	
消化器症例カンファレンス	4 回/月	
消化器・放射線科・外科合同カンファレンス	4 回/月	
地域合同 ESD カンファレンス	1 回/月	
抄読会	4 回/月	
モーニングカンファレンス	20 回/月	

● 研究業績

論文

- 1) Wakatsuki T,Mannami T,Furutachi S,Numoto H,Umekawa T,Mitsumune M,Sakaki T,Nagahara H,Fukumoto Y,Yorifuji T,Shimizu S
 - Glasgow-Blatchford score combined with nasogastric aspirate as a new diagnostic algorithm for patients with nonvariceal upper gastrointestinal bleeding DEN Open,3,1,2023,APR
- 2) Omori T,Ohmiya N,Watanabe K,Hirai F,Nakamura M,Kitamura K,Ozeki K,Oka S,Kawano S,Handa O,Kawai M,Ninomiya K,Sagawa T,Wakamatsu T,Araki A,Koike Y,Kato S,Hashimoto S,Mannami

T,Nakaji K,Tanaka S,Matsui T,J-POP Study Grp

Nationwide multicenter study on adverse events associated with a patency capsule: Additional survey of appropriate use of patency capsule study

J Gastroenterol Hepatol,39,2,337-345,2024,FEB

3) Hitomi Y,Ueno K,Aiba Y,Nishida N,Kono M,Sugihara M,Kawai Y,Kawashima M,Khor SS,Sugi K,Kouno H,Kouno H,Naganuma A,Iwamoto S,Katsushima S,Furuta K,Nikami T,Mannami T,Yamashita T,Ario K,Komatsu T,Makita F,Shimada M,Hirashima N,Yokohama S,Nishimura H,Sugimoto R,Komura T,Ota H,Kojima M,Nakamuta M,Fugimori N,Yoshizawa k ,Mano Y,Takahashi H,Hirooka K,Tsuruta S,Sato T,Yamasaki K,kuginuma Y,Motoyoshi Y,Suehiro T,Saeki A,Matsumoto K,Nagaoka S,Abiru S,Yatsuhashi H,Ito M,Kawata K,Takaki A,Arai K. Arinaga T,Abe M,Harada M, Taniai M,Zeniya M,Ohira H,Shimoda S,Komori A,Tanaka A,Ishigaki K,Nagasaki M,Tokunaga K,Nakamura M.

A genome-wide association study identified PTPN2 as a population-specific susceptibility genelocus for primary biliary cholangitis

Hepatology, 2024, 23-Apr

4) Iwamuro M, Tanaka T, Ennishi D, Matsueda K, Yoshioka M, Miyahara K, Sakaguchi C, Nishimura M, Nagahara T, Mannami T, Takenaka R, Oka S, Inoue M, Takimoto H, Inaba T, Kobayashi S, Toyokawa T, Tsugeno H, Suzuki S, Sawada S, Tanaka S, Tsuzuki T, Okada H.

Long-term outcomes of patients with primary intestinal follicular lymphoma managed with watch-and-wait strategy.

Sci Rep,2023,11-Apr

5) 万波 智彦,藤原 延清,是永 正敬 シェードテラノーバ属幼線虫によるアニサキス症 Gastroenterological Endoscopy 65(5),468,May.2023

6) 榊原 裕子,万波 智彦,桑井 寿雄,豊川 達也,江坂 直樹,神田 暁博,島田 昌明,倉持 みずき,藤井 宏行,加賀 谷尚,渡邉 典子,久保 公利,佐々木 善浩,原田 直彦 小腸内視鏡におけるミダゾラム持続静注と塩酸ペチジン併用の有効性と安全性 Gastroenterological Endoscopy 65(Suppl.1),1028

学会発表

1) 小腸内視鏡におけるミダゾラム持続静注と塩酸ペチジン併用の有効性と安全性 万波 智彦

105 回日本消化器内視鏡学会総会

2023年5月25日

2) 第 25 回専門医セミナー 症例 1:上部消化管 福本 康史

第 119 回日本消化器病学会 中国支部例会

日本消化器病学会中国支部 第 37 回教育講演会

2023年6月24日

3) 上部消化管内視鏡 AI の現状~内視鏡医として AI とどう付き合うか~ 若槻 俊之

第 130 回日本消化器内視鏡学会 中国支部例会

2023年7月9日

4) Pseudoterranova 属幼線虫によるアニサキス症 沼本 紘輝

第 130 回日本消化器内視鏡学会 中国支部例会

2023年7月9日

5) Prostagrandin Ⅰ₂製剤により加療中の肺動脈性肺高血圧症は腺窩上皮型胃腫瘍を高率に発症す る

万波 智彦

日本消化器病学会 第 65 回大会(JDDW2023)

2023年11月3日

6) 内視鏡的切除後に多発肝転移をきたした直腸神経内分泌腫瘍の一例 長江 桃夏 第 120 回日本消化器病学会中国支部例会 第 131 回日本消化器内視鏡学会中国支部例会

2023年11月18日

7) 急性膵炎に合併した非閉塞性腸管虚血の 1 例 山西 友梨恵

第 120 回日本消化器病学会中国支部例会 第 131 回日本消化器内視鏡学会中国支部例会

2023年11月18日

8) ポリグリコール酸シートにより保存的加療が可能であった胃潰瘍穿通の1例 栗原 淳

第 120 回日本消化器病学会中国支部例会 第 131 回日本消化器内視鏡学会中国支部例会

2023年11月18日

9) 胃濾胞性リンパ腫の2例

茅原 奈央

第 120 回日本消化器病学会中国支部例会第 131 回日本消化器内視鏡学会中国支部例会

2023年11月19日

10) ワルファリン内服継続下での内視鏡的大腸ポリープ摘除術は安全か 万波 智彦

第20回日本消化管学会総会学術集会

2024年2月10日